

## 河崎 征俊 略歴・研究業績目録

## 略 歴

1944年11月29日生

## 〈学歴〉

- 1967年 3月 駒澤大学文学部英米文学科卒業  
1969年 3月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了  
1974年 3月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士後期課程  
満期退学  
1986年 4月 ～ 1988年 3月  
英国ケンブリッジ大学ウルフソン・コレッジに留学  
2010年 3月 博士（文学）[専修大学]

## 〈職歴〉

- 1974年 4月 駒澤大学外国語部英語科専任講師  
1977年 4月 駒澤大学文学部英米文学科専任講師  
1978年 4月 駒澤大学文学部英米文学科助教授  
1984年 4月 駒澤大学文学部英米文学科教授  
1991年 4月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程教授  
1995年 4月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士後期課程  
教授  
2015年 3月 駒澤大学定年退職

## 〈学内〉

- 1993年 4月 ～ 1997年 3月

文学部英米文学科学科主任

2009年4月 ～ 2011年3月

駒澤大学コミュニティ・ケアセンター所長

2009年4月 ～ 2013年3月

大学院人文科学第二研究科委員長

〈学会委員〉

日本英文学会評議員	1999年4月 ～ 2002年3月
日本英文学会大会準備委員	1999年4月 ～ 2002年3月
日本中世英語英文学会副会長	2009年4月 ～ 2011年3月
日本中世英語英文学会事務局長	1995年4月 ～ 1997年3月
日本中世英語英文学会評議員	1996年4月 ～ 2002年3月
	2006年4月 ～ 2011年3月
日本中世英語英文学会編集委員	1997年4月 ～ 2002年3月
日本中世英語英文学会東支部代表幹事	1990年4月 ～ 1993年3月
	2003年4月 ～ 2004年3月

〈非常勤講師〉

青山学院大学、中央大学、明治学院大学、日本大学、東海大学大学院

業 績

〈著書〉

- ・『イメージの詩学——英詩ノート』（篠崎書林、1984）[単著]
- ・『「バースの女房」をめぐって』（学書房、1985）[共著]
- ・『ワーズワス「序曲」論集』（国文社、1988）[共著]
- ・『中世英文学への巡礼の道』（南雲堂、1993）[共著]
- ・『チョーサー文学の世界——〈遊戯〉とそのトポグラフィー』（南雲堂、

- 1995) [単著]
- ・『中世英文学の伝統』（雄松堂、1997）[共編著]
- ・『言葉の絆』（開拓社、2006）[共著]
- ・『テキストの言語と読み』（英宝社、2007）[共著]
- ・『チョーサーの詩学——中世ヨーロッパの〈伝統〉とその〈創造〉』（開文社、2008）[単著]

〈論文〉

- ・「*Pearl* 試論——夢と光をめぐって」（中世英文学談話会報第10号、1972）
- ・「*Trouthe*と*Remembraunce*——*Chaucer's Legend*のために」（駒澤大学大学院『試論』第1号、1973）
- ・「*Pearl*ノート」（駒澤大学外国語部『紀要』第5号、1976）
- ・「チョーサーの*colour words*について」（中世英文学談話会報第14号、1976）
- ・「『*カンタベリー物語*』における色彩語について」（駒澤大学外国語部『論集』第6号、1977）
- ・“*The Idea of Enlightenment in the Pearl*”（駒澤大学英米文学科『英米文学』第13号、1978）
- ・“*The Garden Imagery in the Pearl*”（駒澤大学文学部『紀要』第36号、1978）
- ・「ダンの夢想の世界について」（駒澤大学英米文学科『英米文学』第14号、1979）
- ・「*The Canterbury Tales*の女性について」（中世英文学談話会報第17号、1979）
- ・「*The Canterbury Tales*の女性イメージについて」（駒澤大学英米文学科『英米文学』第15号、1980）
- ・「詩的リアリティーについて」（駒澤大学英米文学科『英米文学』第16号、

1981)

- ・「チョーサーの免罪状売りの性格と意味について」、『文学と人間』所収(金星堂、1981)
- ・「“Tintern Abbey”の自然——精神の発展過程の一面として」(駒澤大学文学部『紀要』第40号、1982)
- ・「チョーサー学の現状」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第18号、1983)
- ・「『リア王』の流転について」、『シェイクスピアの四季』所収(篠崎書林、1984)
- ・「*The Knight's Tale*の死と発展について」(駒澤大学文学部『紀要』第42号、1984)
- ・「現代英詩人の魂の相克について」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第19号、1984)
- ・“Dramatic Image in Chaucer's Pardoner” (駒澤大学英米文学科『英米文学』第20号、1985)
- ・「'auctrite' と 'experience'——*The Knight's Tale*を中心にして」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第21号、1986)
- ・「ヴィンソーフの詩法とチョーサー——イメージ研究の側面から」、『英語青年』第133巻第9号(研究社、1987)
- ・「ME Romance *Emare*におけるStructuring Devicesについて」(駒澤大学文学部『紀要』第47号、1989)
- ・「中世英文学研究における写本の意義について」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第24号、1989)
- ・「チョーサーの〈遊戯〉のコンテクスト——*The Canterbury Tales*の場合」、『英語青年』第135巻第9号(研究社、1989)
- ・「*The Franklin's Tale*のtopography——'gardyn'の意味するもの」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第25号、1990)
- ・「チョーサー批評における言語と内面的解釈——D. S. Brewerを中心に」(駒澤大学文学部『紀要』第48号、1990)

- ・「*The Book of the Duchess*にみられるorganic designについて」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第26号、1991)
- ・「チョーサーと〈庭園〉のイメージ」、『英語青年』第137巻第11号(研究社、1992)
- ・「*The Legend of Good Women*のPrologue論——〈コントラスト〉から〈パラダイス〉へ」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第28号、1993)
- ・「ボエティウスとチョーサー」(駒澤大学文学部『紀要』第51号、1993)
- ・「Chaucerの〈時間〉の意識について」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第29号、1994)
- ・「Chaucerにみられる‘dualism’の意識——‘one’と‘many’をめぐって」、『SENTENTIAE』所収(北斗書房、1995)
- ・「チョーサーにおけるoralityについて——‘folk culture’の観点から」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第30号、1995)
- ・「Chaucerのnarrative gameについて」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第31号、1996)
- ・「[「場」としての‘gardyn’の意義について——BoccaccioからChaucerへ」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第32号、1997)
- ・「Chaucerの‘mutability’のtoposについて——*Troilus*とBoethiusを中心に」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第33号、1998)
- ・「*The House of Fame*におけるauctoriteeとexperience」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第34号、1999)
- ・「Chaucerの*The Reeve’s Tale*における‘wheel’のモチーフ」(中央大学『総合政策研究——故高柳暁教授追悼論文集』第5号、2000)
- ・「Chaucerの初期の作品に見られる階層文化の痕跡——‘authority’と‘experience’の側面から」、『虚構と真実——14世紀イギリス文学論集』所収(桐原書店、2000)
- ・「*The Canterbury Tales*のいわゆる宗教的物語に見られる喜劇性」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第35号、2000)

- ・「the craft so long to lerne」: *The Parliament of Fowls*における‘love’と‘art’の主題をめぐる(駒澤大学英米文学科『英米文学』第36号、2001)
- ・「*The Shipman’s Tale*における dry irony」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第37号、2002)
- ・「Forest からCourtへ: *Sir Gawain and the Green Knight*における Topographical Imageをめぐる(駒澤大学英米文学科『英米文学』第38号、2003)
- ・「blynde prosperitee」: *The Monk’s Tale*における悲劇の意味について(駒澤大学英米文学科『英米文学』第39号、2004)
- ・「What thyng is that?」: *Troilus and Criseyde*における‘parole’の役割とその効果について、『ことばと文学:池上昌教授記念論文集』所収(英宝社、2004)
- ・「tempus’ と ‘aeternitas’: *The Knight’s Tale*におけるチヨーサーの〈時〉の意義(駒澤大学英米文学科『英米文学』第40号、2005)
- ・「A preve by experience」(HF. II. 878): Chaucerに見る‘authority’と‘experience」(駒澤大学英米文学科『英米文学』第41号、2006)
- ・“Perfect or Imperfect?: Narrative Voices in *Sir Gawain and the Green Knight*”(駒澤大学英米文学科『英米文学』第42号、2007)
- ・“‘For schame!’ (SGGK. 1530): ‘name’ and ‘shame’ in *Sir Gawain* and Chaucer’s *Troilus*”(駒澤大学英米文学科『英米文学』第44号、2009)
- ・「チヨーサーの〈語り手〉——初期の作品から『トロイルスとクリセイデ』まで」、『梅檀の光——富士川義之先生・久保内端郎先生 退職記念論文集』所収(金星堂、2010)
- ・“The ‘olde bokes’ become ‘newe’ —— Poetic Artistry in Chaucer’s *The Book of the Duchess*”(駒澤大学英米文学科『英米文学』第45号、2010)
- ・“‘My Wyl Is This’ (CT. [A] 1845): Chaucer’s Sense of Power in *The Knight’s Tale* and *The Clerk’s Tale*,” in David Wallace and others eds., *From Beowulf to Caxton* (Berlin: Peter Lang, 2011)
- ・“‘not semly’ (SGGK. 348): the Metamorphosis of a Hero’s Idealism in

*Sir Gawain and the Green Knight*” (駒澤大学英米文学科 『英米文学』 第47号、2012)

- ・「中世における〈死者〉と〈亡霊〉」、『亡霊のイギリス文学』所収 (国文社、2012)
- ・“Spatial Images and Fortune in *The Knight's Tale*” (駒澤大学英米文学科 『英米文学』 第48号、2013)
- ・“‘up and down to wynde’ (II. 601) : Criseyde’s Mental Court in *Troilus and Criseyde*” (『チヨースーと中世を眺めて：チヨースー研究会 20周年記念論文集』所収 (麻生出版、2014))

#### 〈翻訳〉

- ・G. W. ナイト 『煉獄の火輪——シェイクスピア悲劇の解釈』 (オセアニア出版、1981) [共訳]
- ・ノースロップ・フライ 『同一性の寓話——詩的神話学の研究』 (法政大学出版社、1983) [共訳]

#### 〈書評〉

- ・「都留久夫他監修『チヨースーの「公爵夫人の書」を読む』について」(『英語青年』 第137巻第8号、1991)
- ・「Masahiko Kanno, *Studies in Chaucer's Words*について」(『英語青年』 第142巻第6号、1996)
- ・「瀬谷幸男訳 (ジェフリー・チヨースー) 『中世英語版・薔薇物語』 について」(『図書新聞』、2001)
- ・“Isamu Saito, *Chaucer: Ambiguity, Playfulness and Piety*,” [英文] (日本中世英語英文学会研究誌 *SIMELL*, No. 17, 2001)
- ・「奥田宏子 『チヨースー——中世イタリアへの旅』 について」(神奈川大学 『神奈川大学評論』 第46号、2003)
- ・「岡三郎訳 (ジェフリー・チヨースー) 『トロイルス』 について」(『英語

青年』第152巻第3号、2006)

- ・ “Akiyuki Jimura, *Chaucer no Eigo no Sekai (The World of Chaucer’s English)*,” [英文] (日本中世英語英文学会研究誌 *SIMELL*, No. 28, 2013)

〈その他 (詩集・随筆等)〉

- ・ 詩集『閉ざされた沈黙』(朝日出版社、1976)
- ・ 詩集『ショパンの眠り』(書肆山田、1977)
- ・ 詩集『海でカケスが翔んでいる風景』(書肆山田、1979)
- ・ 詩集『夜へ向かう陰影のオード』(高文堂、1982)
- ・ 『イギリスの四季——ケンブリッジの暮らしと思い出』[共著] (彩流社、2012)

〈学会発表・講演・講義等〉

[海外]

- ・ 1998. 7 “Chaucer’s Idea of *Topos*” (The 9th Conference of the International Courtly Literary Society; University of British Columbia, Canada)
- ・ 2001. 7 “Books and Experience in Chaucer’s *House of Fame*” (The 10th Conference of the International Courtly Literary Society; University of Tubingen, Germany)
- ・ 2002. 7 “Topographical Images in *Sir Gawain and the Green Knight*” (The 20th Congress of the International Arthurian Society; University of Wales, England)
- ・ 2004. 8 “Fictionality and Actuality in Chaucer’s Courtly Narrative” (The 11th Conference of the International Courtly Literary Society; University of Wisconsin, USA)
- ・ 2005. 7 “Perfect or Imperfect?: Narrative Voices in *Sir Gawain and the Green Knight*” (The 21st Congress of the International



Arthurian Society; Utrecht University, the Netherlands)

- ・2007. 7 “ ‘My wyl is this’ (CT. [A] 1845) : Chaucer’s Sense of Power in *The Knight’s Tale* and *The Clerk’s Tale*” (The 12th Conference of the International Courtly Literary Society; University of Lausanne, Switzerland)
- ・2008. 7 “ ‘For Schame!’ (SGGK. 1530) : ‘name’ and ‘shame’ in *Sir Gawain* and Chaucer’s *Troilus*” (The 22nd Congress of the International Arthurian Society; Université de Rennes, France)
- ・2011. 7 “ ‘not semly’ (SGGK. 348) : the Metamorphosis of a Hero’s Idealism in *Sir Gawain and the Green Knight*” (The 23rd Congress of the International Arthurian Society; University of Bristol, England)

[国内]

- ・1983. 5 「*The Knight’s Tale*における自然とritual」[研究発表]（日本英文学会第55回大会、於・昭和女子大学）
- ・1989. 5 「Chaucerの批評の展開」[シンポジウム講師]（日本英文学会第61回大会、於・青山学院大学）
- ・1991. 11 「ChaucerとGarden-topos」[研究発表]（日本中世英語英文学会第7回大会、於・大手前女子大学）
- ・1992. 5 「中世文学とネオプラトニズム」[シンポジウム講師]（日本英文学会第64回大会、於・西南学院大学）
- ・1994. 5 「*The Merchant’s Tale*の〈場〉の意識」[研究発表]（日本英文学会第66回大会、於・熊本大学）
- ・1997. 5 「*The Reeve’s Tale*の‘wheel’のモチーフ」[研究発表]（日本英文学会第69回大会、於・宮城学院女子大学）
- ・1998. 12 「Chaucer文学におけるauthorityとexperience」[シンポジウム司会・講師]（日本中世英語英文学会第14回大会、於・

県立山口女子大学)

- ・ 2001. 12 「*The Shipman's Tale*におけるthyng(s)のメタファー」[研究発表] (日本中世英語英文学会第17回大会、於・慶應義塾大学 [三田校舎])
- ・ 2004. 12 「*The Knight's Tale*におけるチヨースーの〈時〉の意識」[研究発表] (日本中世英語英文学会設立20周年記念大会、於・武庫川女子大学)
- ・ 2005. 5 「authorityとexperienceの相克とその変容：中世からルネッサンスへ」[シンポジウム司会・講師] (日本英文学会第77回大会、於・日本大学 [文理学部])
- ・ 2008. 12 「Chaucerの〈眼〉の比喩をめぐって」[シンポジウム講師] (日本中世英語英文学会第24回大会、於・大阪府立大学)
- ・ 2010. 7 「チヨースーの新しさ：在るがままの今、変わらぬものへのところ」[特別講演] (中央大学人文科学研究所公開研究会、於・中央大学駿河台記念館)
- ・ 2011. 10 「中世英国詩人チヨースーの新しさ」[特別講演] (日本英文学会中国四国支部第64回大会、於・島根大学)
- ・ 2012. 5 「チヨースー文学に見る感覚表現：〈聴覚〉と〈視覚〉の側面から」[シンポジウム講師] (日本英文学会第84回大会、於、専修大学 [生田校舎])
- ・ 2014. 3 「カンタベリーと『カンタベリー物語』」[特別講義] (朝日カルチャーセンター 1月期講座：シリーズ・世界の宗教都市 [新宿])

〈所属学会〉

日本英文学会、日本中世英語英文学会、国際チヨースー学会、国際アーサー王学会、国際宮廷文学会